

# 図説 地球上の核弾頭全データ

2009年5月

## 【解説】

どの核兵器保有国も、自国の核弾頭数やその内訳を公表していない。以下のデータは、非政府組織（NGO）が公的情報や議会証言、インタビュー記事などを長年にわたって継続的に収集・分析することによって得られたものである。

米オバマ政権は、本年12月をめどに核態勢見直し（NPR）の作業を進めている。同時に、12月に期限が切れるSTART（戦略兵器削減条約）の後継条約の交渉も進行中である。これらの作業によって核弾頭の維持管理体制が変化し、弾頭の分類や数え方も変化するであろう。たとえば、ブッシュ政権が導入した**迅速対応戦力**（以下を参照）という概念は否定される可能性がある。そのような近い将来の変化を予測しつつも、現状においては、ブッシュ政権が行ったNPR（02年1月、以下「02年NPR」）に基づいてデータの整理を行わざるを得ない。

02年NPRでは、弾頭の保管状況が「**活性状態**」と「**不活性状態**」に大別された。前者はそのまま使用できる弾頭であり、後者は時間が経過すると劣化するトリチウムや電池などを除いて貯蔵している弾頭である。07年末にブッシュ大統領が、不活性貯蔵の多くを廃棄すると発表したため、エネルギー省において解体を待っていることが明確になっている弾頭として、本誌の過去のデータではそれを不活性貯蔵リストから排除した。しかし、このやり方は、その後一般的に使われていた弾頭の数え方と違う結果となった。混乱を避けるために、今年からは弾頭を次のように分類・整理することにした。

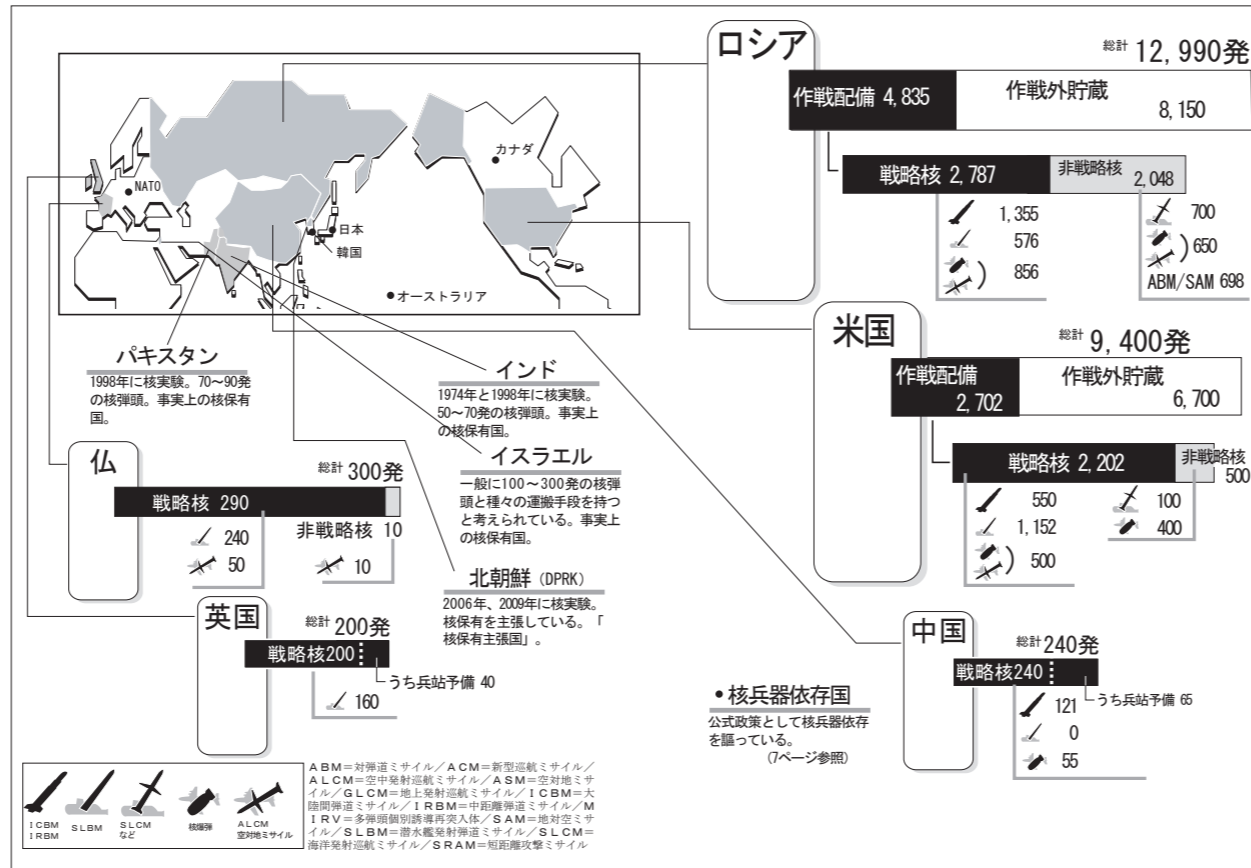
- ① 作戦配備の弾頭** 部隊に配備・貯蔵されている活性状態の弾頭。（オーバーホール中の原潜の核弾頭を作戦配備に含めていない。）
- ② 兵站予備の弾頭** ルーチン整備・検査のために確保されている活性状態にあるスペアである。米国の戦略核兵器について推定するための一定の情報がある。概ね①の5~10%と推定される。米政府はこれを作戦配備と数えていないことが判明した。
- ③ 予備貯蔵の弾頭** 活性、不活性を含め、再使用の可能性を想定して貯蔵しているもの。迅速対応戦力もこれに含めた。**迅速対応戦力**とは、作戦配備から外した核弾頭の中でも情勢の変化によって復活させることを前提として活性状態で貯蔵するもので、ブッシュ政権の新しい戦略の3本柱によって導入された。表ではオーバーホール中の原潜（通常2隻）の弾頭もこれに含めた。
- ④ 退役弾頭** 退役した核弾頭で解体を前提に保管されているもの。

以下の図表の作成においては、②と③と④を合わせて「**作戦外貯蔵**」とする。

米国では、他に弾頭の形ではなくて、一次爆発用プルトニウム・ピット12,000発と二次爆発部分5,000発を分離して貯蔵しているとされる。

北朝鮮（DPRK）は2009年5月25日に2度目の核実験を行い、核保有国であると主張しているが、弾頭化/兵器化に関しては情報が無い。本図説では従来通り「核保有主張国」と位置づけた。

事実上の核兵器保有国と見なされるインド、パキスタン、イスラエルを含めると、地球上には今なお23,000発以上の核弾頭があり、オーバーキル状態は変わらない。



## ヨーロッパ配備の米核爆弾

国名	基地	搭載機 (所属国)	核弾頭の数		計
			米国分担	受入国分担	
ベルギー	クライネ・フローゲル	F-16(ベルギー)	0	10~20	10~20
ドイツ	ビュヒェル	PA-200(独)*	0	10~20	10~20
イタリア	アビアノ	F-16C/D(米)	50	0	50
	グディ・トーレ	PA-200(伊)*	0	20~40	20~40
オランダ	フォルケル	F-16(蘭)	0	10~20	10~20
トルコ	インジリク	F-16C/D(米)	50	0~40	50~90
	合計		100	50~140	150~240

(表注)\*PA-200 は、米独伊共同開発の戦闘爆撃機で、「トルネード」と通称される。

出典：「ニュークリア・ノートブック」(『プレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト』に連載)を基本にしながら、S・ノリス(天然資源保護評議会(NRDC、米国))、H・クリステンセン(全米科学者連盟(FAS))、バベル・ボドビック(ロシア戦略核能力プロジェクト、ロシア)などの文献を参考にして作成した。

## NPT加盟核保有国の核弾頭数

		2009年5月						
		米	ロ	英	仏	中	合計	
作戦配備	戦略核	ICBM/IRBM	550	1,355	0	0	121	2,026
		SLBM	1,152	576	160	240	0	2,128
		爆撃機搭載核兵器	500	856	0	50	55	1,461
		小計	2,202	2,787	160	290	176	5,615
	非戦略核	ABM/SAM	0	698	0	0	0	698
		空軍航空機用	400	650	0	0	0	1,050
		海軍用	100	700	0	10	0	810
		小計	500	2,048	0	10	0	2,558
		合計	2,702	4,835	160	300	176	8,173
		作戦外貯蔵	6,700 <sup>注1</sup>	8,150	40 <sup>注2</sup>	-	65 <sup>注2</sup>	14,995
総計	9,400	12,990	200	300	240	23,130		

注 1. 兵站予備150、予備貯蔵2,350、退役弾頭4,200。  
 2. すべてが兵站予備と推定される。

## 米国 (計 9,400)

核兵器の名称	爆発力キロトン	核弾頭数
<b>戦略核 (小計 2,207)</b>		
●ICBM (小計550)		
ミニットマンⅢ		550
Mk-12型 (弾頭:W62)	170	0 <sup>1</sup>
Mk-12A型 (弾頭:W78)	335	350 <sup>2</sup>
Mk-21型 (弾頭:W87)	300	200 <sup>3</sup>
●SLBM <sup>4</sup> (小計1,152)		
トライデントⅡ D5		1,152 <sup>5</sup>
Mk-4型 (弾頭:W76)	100	718
Mk-4A型 (弾頭:W76-1)	100	50 <sup>6</sup>
Mk-5型 (弾頭:W88)	455	384
●爆撃機搭載核兵器 <sup>7</sup> (小計500)		
核爆弾 B61-7	可変<1~360	150
B61-11 <sup>8</sup>	5	
B83-1	可変<1,200	
ALCM (弾頭:W80-1)	5~150	350
<b>非戦略核 (小計 500)</b>		
●SLCM		
トマホーク (弾頭:W80-0)	5~150	100 <sup>9</sup>
●核爆弾 B61-3,4,10		
	0.3~170	400 <sup>10</sup>
<b>作戦外貯蔵 (小計 6,700<sup>11</sup>)</b>		

- W62は2008年に退役。
- 1~3MIRV×250基。
- 単弾頭が200基。W62を置きかえている。
- オハイオ級戦略原潜12隻に搭載。ミサイル数は288基(12×24)。原潜数は14隻であるが、常時2隻はオーバーホール。
- 12隻×24発射管×4MIRV。
- W76-1は2008年10月末から配備が始まった。
- ストラトフォートレスB-52H(93機のうちの44機)、スピリットB-2A(20機のうちの16機)、計60機が任務(核・非核両用)についている。B-2Aは爆弾のみ。警戒態勢は低い。
- 地中貫通型(1997年11月に導入)。貫通は6m。B-2Aにのみ搭載。
- ワシントン州バンゴーに予備を含めて集約して貯蔵。
- 迅速対応戦力も含めて150~240個がNATO軍用としてヨーロッパ5か国の6か所の空軍基地に配備(別表参照)。その他に米国内では、ファイティング・ファルコンF16C/D、およびストライク・イーグルF15Eに搭載。
- 兵站予備150発、予備貯蔵2350発、退役弾頭4200発からなる。トマホーク(200発)、B61(-3,4,10)、オーバーホール中の2隻のオハイオ級原潜のトライデント弾頭(48発)などは予備貯蔵。

## ロシア (計 12,990)

核兵器の名称	爆発力キロトン	核弾頭数
<b>戦略核 (小計 2,787)</b>		
●ICBM (小計1,355)		
SS-18 M4,M5,M6 (サタン)	550~750	680 <sup>1</sup>
SS-19 M3 (ステレトウ)	550~750	432 <sup>2</sup>
SS-25 (シックル)(トーポリ)	550	180 <sup>3</sup>
SS-27 (トーポリM)	550	50 <sup>4</sup>
SS-27A (トーポリM1)	550	13 <sup>5</sup>
SS-27B (トーポリM RS-24型)	550	0 <sup>6</sup>
●SLBM (小計576) <sup>7</sup>		
SS-N-18 M1 (スタングレイ)	200	192 <sup>8</sup>
SS-N-23 (スキフ)	100	192 <sup>9</sup>
SS-N-23M1 (シネバ)	100	192 <sup>10</sup>
SS-N-30 (プラバ)	100	0 <sup>11</sup>
●爆撃機搭載核兵器 (小計856)		
核爆弾		856 <sup>12</sup>
ALCM (弾頭:AS15A,B)	250	
SRAM (弾頭:AS16)		
<b>非戦略核 (小計 2,048)</b>		
●ABM/SAM (小計698)		
51T6/53T6 (ゴーン/ガゼル)		1000/10
SA-10 (グランブル)	low	630
●空軍航空機 (小計650)		
核爆弾/ASM AS-4 (キッチン)	1000	650 <sup>14</sup>
/SRAM AS-16		
●海軍用戦術核 (小計700)		
核爆弾		700
ASM AS-4 (キッチン)	1000	
SLCM	200~500	
対潜核兵器		
SAM		
核魚雷、核爆雷		
<b>作戦外貯蔵 (小計 8,150)</b>		

- 10MIRV×68基。START IIが無効になり保持。しかし削減が続く。液体燃料。
- 6MIRV×72基。削減する計画。液体燃料。
- 単弾頭。ロシア名トーポリ。道路移動型で固体燃料。2008年8月28日に改良型の発射テスト。
- 単弾頭。ロシア名トーポリM。サイロ型。軌道を変更できる弾頭もある。
- トーポリMの移動型。新しいカモフラージュ。
- RS-24という新型名で08年11月26日に試射成功。3MIRVまで可能。2009年12月に配備予定。
- 搭載原潜は、デルタⅢ級4隻、デルタⅣ級6隻。核ミサイルを搭載しないが、タイフーン級3隻も残っており、発射テストに使われている。
- デルタⅢ級戦略原潜4隻に搭載。4隻×16発射管×3MIRV。2008年8月1日に発射テスト。
- デルタⅣ級戦略原潜3隻に搭載。3隻×16発射管×4MIRV。2008年10月11日に発射テスト。
- 6MIRVと推定される。08年9月、潜水発射に成功。しかし、12月23日には発射に失敗し、計画は遅れている。新型のボレイ型原潜搭載予定。
- ベアH6 (Tu-95MS6)32機、ベアH16 (Tu-95MS16)31機、ブラックジャック (Tu-160)14機に搭載。ベアH6は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を6個(計192個)、ベアH16は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を16個(計496個)、ブラックジャックはAS15BまたはAS16、または核爆弾を12個(計168個)搭載する。
- 報道によるとゴーンはABM任務からはなくなった。
- バックファイヤー (Tu-22M)やフェンサー (Su-24)524機に搭載。